

市町村名	南大東村					
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】						
事業名	循環型農業推進事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ 農林水産業の振興
担当部課名	産業課	事業実施年度	令和3年度	令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)
事業内容	本村はサトウキビ作農業を主体としているが、畜産農家が少ないなどで、堆肥原料の確保が課題となっていることから、台風等で折損、倒木した防風・防潮林を破砕・チップ化するとともに、村内の自然池で大量繁殖している外来種の水草・泥炭等を除去して、破砕チップと水草等を混合し堆肥化することで、土壌改良による農業生産の向上と、防風・防潮林帯の保全、自然池の環境保全を図る。					
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()					
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		R3年度				合計
	A. 予算現額	88,715				88,715
	B. 執行済額	85,800				85,800
	うち 交付金充当額	68,640				68,640
	執行率(%) (B/A)	96.7%				96.7%
	執行状況の説明	R3年度は木材破砕機の備品購入を予定していたが、アタッチメントの追加や新型コロナによる部品調達の遅れにより翌年度へ繰越となった。最終的な執行率は96.7%となり、概ね計画的に執行できた。				
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況				
			R3年度			
	水草除去装置1機及び木材破砕機一式整備	目標	整備			
		実績	完了			
		目標				
		実績				
		目標				
		実績				
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	水草除去装置1機及び木材破砕機一式整備	目標	購入			
		実績	完了			
	【R6成果目標】 サトウキビ生産量(過去10年平均から5%増)	目標	基準値	5%増	5%増	5%増
		実績	増加率 (73,457t)	18.1%増 (86,750t)	3.5%減 (70,869t)	50.6% (110,611t)
		目標				
		実績				

事業完了後の取り組み

成果目標(指標) □ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果		達成／進捗状況				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度 目標/発現年度	
【R6成果目標】 サトウキビ生産量(過去10年平均から5%増)	目 標	基準値	5%増	5%増	5%増	
	実 績	増加率 (73,457t)	18.1%増 (86,750t)	3.5%減 (70,869t)	50.6% (110,611t)	
	目 標					
	実 績					
事業完了後の成果目標 状況説明	【R4年度】 ・サトウキビ生産量は基準年度と比較し、18.1%増となり目標を上回っている。					
	【R5年度】 ・サトウキビ生産量は干ばつの影響もあり、基準年度と比較し、3.5%減となり目標を下回っている。					
	【R6年度】 ・サトウキビ生産量は基準年度と比較し、50.6%増となり目標を大幅に上回っている。					

【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)	【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)
【R4年度】 ・村内の畜産農家が少なく従来型の堆肥原料(家畜ふん尿)の安定供給が困難。 【R5年度】 ・化学肥料価格の高騰により、有機資源を活用した土壌改良へのニーズが高まっている。 【R6年度】 ・サトウキビ収量、糖度に影響する土壌要因の科学的根拠が不足しており、現場対応が属人的、経験則に偏っている。	【R4年度】 ・畜産資源に限られる現状を踏まえ、森林資源(防風林)や外来水草等の地域未利用資源を代替原料として活用するスキームを確立。 【R5年度】 ・化学肥料価格高騰という外部環境の変化に対応し、チップ堆肥の品質向上と量産体制の構築を推進。 【R6年度】 ・現場対応が経験則に偏っていた反省から、土壌調査の体系化とデータ収集体制の構築を進める。

今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)

- 【R4年度】
 - ・防風林や倒木、水草などの地域未利用資源を堆肥原料として活用可能な体制を構築。
 - ・破碎、チップ化、混合処理の工程を整理し、資源循環の基本モデルを実証。
- 【R5年度】
 - ・R4年度に整備した原料活用体制を活かし、堆肥の品質安定と量産化に着手。
 - ・モデル圃場等での実証実験を通じて、農家への活用事例の提示と普及促進。
- 【R6年度】
 - ・土壌実態調査を体系化し、土壌データと収量、糖度との相関分析を実施。
 - ・調査結果を農家と共有し、現場で再現可能な堆肥設計の指導体制を整備。

市町村名	南大東村						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	大池周辺自然観察施設整備事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-ア 生物多様性の保全	
担当部課名	教育委員会	事業実施 年度	令和 3	～令和 4	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-10-(1)	
事業内容	天然記念物である「大池のオヒルギ群落」等の野生動植物が生息する大池周辺の自然環境を活用するため、自然観察施設を整備する。						
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		R3年度				合計	
	A. 予算現額	78,613				78,613	
	B. 執行済額	78,613				78,613	
	うち 交付金充当額	60,241				60,241	
	執行率(%) (B/A)	100.0%				100.0%	
	執行状況の説明	R3年度は、設計業務の調整に不測の日数を要したことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響による資材供給の遅延が発生したことから、建築工事の着手が困難となり翌年度へ繰越となった。最終的な執行率は100.0%となり、計画的に執行できた。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度				
	設計・管理業務の実施	目 標	業務実施				
		実 績	完了				
	建築工事の実施	目 標	工事実施				
		実 績	完了				
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	設計・管理業務の実施完了	目 標	業務完了				
		実 績	完了				
	建築工事の実施完了	目 標	工事完了				
		実 績	完了				
	【R6成果目標】 島内観光客数(過去4年平均から5%増)	目 標	基準値	5%増	5%増	5%増	
		実 績	増加率 (3,675人)	17.1%増 (4,305人)	31.9%増 (4,846人)	14.4%増 (4,203人)	

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度 目標/発現年度	
	【R6成果目標】 島内観光客数(過去4年平均から5%増)		目 標	基準値	5%増	5%増	5%増	
			実 績	増加率 (3,675人)	17.1%増 (4,305人)	31.9%増 (4,846人)	14.4%増 (4,203人)	
			目 標					
			実 績					
	状況説明		【R4年度】 ・島内観光客数は基準年度と比較し、17.1%増となり目標を上回っている。 【R5年度】 ・島内観光客数は基準年度と比較し、31.9%増となり目標を大幅に上回っている。 【R6年度】 ・島内観光客数は基準年度と比較し、14.4%増となり目標を上回っている。					
	【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
【R4年度】 ・特別天然記念物の保護と施設整備の両立が必要であり、設計、施工に配慮と調整が求められる。 【R5年度】 ・自然環境や生物多様性への関心の高まりにより、施設に求められる機能や役割も拡大。 【R6年度】 ・施設の利用者等(観光客、教育関係者)の導線設計や受入れ環境が十分に検討されていない可能性。			【R4年度】 ・環境保全に配慮した設計(非接触型観察)を導入。 【R5年度】 ・保全、教育、観光の3要素をバランスよく満たす施設機能の再設計。 【R6年度】 ・施設利用マナーや自然保護意識を促す案内・ガイド体制の整備。					
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)								
【R4年度】 ・特別天然記念物への影響を最小限に抑えるため、環境に配慮した施設設計を徹底。 【R5年度】 ・生物多様性や環境学習への社会的関心の高まりを受け、観察、教育機能をバランスよく組み込んだ設計案に拡充。 【R6年度】 ・実際の利用場面を想定し、観光客や教育関係者が安心、安全に利用できる導線を最適化。								